

# ニッポン ドクター和の 臨終図巻



この女優さんは元薬剤師という変わった経歴の持ち主です。東京薬科大学の前身である東京薬学専門学校を卒業し、東大附属病院に勤務していたそう。

その後、演劇に魅せられて、俳優座養成所の第一期生となり、女優へと転身。どっしりとした独特の存在感を放つ名バイプレイヤーとして活躍された野村昭子さん。東京都内でひとりの暮らしをされていました。最近姿を見ない」と連絡を受けた親族が7月1日に自宅を訪問、寝室で倒れている野村さんを発見し通報。その後、警察で死亡が確認されました。享年95。熱中症で死亡した可能性が高いといわれています。

## 264 女優 野村昭子



長尾和宏 (ながお・かずひろ) 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。この連載が『平成臨終図巻』として単行本化され、好評発売中。関西国際大学客員教授。

今年6月末から7月上旬まで、各地で異常な暑さが続きましたよ。消防庁の発表によれば、6月27日から7月3日までの1週間、熱中症で救急搬送された人は全国で1万4353人。前年の同期は1300人だったので、なんと11倍以上に増えています。熱中症で救急搬送される人の8割が65歳以上であるといわれています。特に、老衰期に入ってきた人は要注意です。高齢になればなるほど、気温と湿度に鈍感になるからです。

熱中症は長時間屋外にいる人になるもの、というイメージがあるかもしれませんが、それは間違い。熱中症を引き起こすのは、高温多湿で風があまり通っていない環境。暑い日にエアコンをつけずに過ごす室内のほうが、むしろリスクが高いのです。昨今は夜も蒸し暑い。ため、夜間や早朝の室内でも熱中症になることがありま。真夏の朝、ヘルパーさんが独居高齢者の御宅へ行ったら亡くなっていたというケースがあります。前日に食事や水分をきちんと摂れていなかったり、エアコンはついていても、誤って暖房になっていて蒸し風呂状態だったという話もよくあります。舌を診るとカラカラに乾燥しているほどの脱水状態でも、喉の渇きを自覚しない高齢者もいます。

野村さんは、お元気な一人暮らしだったゆえ、もしかすると在宅スタッフが入っていなかったのかもしれない。しかし、持病のあるなしにかかわらず、独居で80歳を過ぎたなら、定期的に訪問に来てもらう態勢を作っておいたほうが安心です。野村さんは、薬学専門学生生のとき終戦を迎えました。終戦時に自決を考え、皇居に行ってみると、そこにはすでに自決した軍人さんたちの姿があった。それで冷静になり、自決を断念したといえます。死ぬのをやめて、77年。見事に女優人生を生き抜きました。

# 室内でも熱中症のリスクは高い